

1960年代からのカウンターカルチャーのシーンを集めた渡辺眸写真誌『遊行め』をmake up



渡辺眸
遊行め
Yugyoume, or Hitomi On The Road
The Photography of Watanabe Hitomi

監修 榎田きこり個人
編集 カウンターカルチャー・アーカイブ『私の青空』
発行 プラサード書店 PRASAD BOOKS

プラサード書店が隠れたるアーカイブの公開の再開で蘇らせる

プラサード書店として34年ぶりに出版を再開した。『NO NUKES ONE LOVE —いのちの祭り '88 in 八ヶ岳 Jamming Book』以来だ。ここでの掲載分も含め集めた全ての写真は、Facebook ページ【プラサード書店】で公開している。

この本を含めて3冊の本を出していた。その前の2冊は、屋久島の山尾三省の『聖老人』と諏訪之瀬島のナーガ(長沢哲夫)の詩集『手のひらに虹の長い尾羽根がまわっている』だ。三省とナーガの本は彼らの最初の書籍となるもので、手掛けさせてもらった。

三省の『聖老人』は五つの章で組み立てた。屋久島移住後に訪問していた渡辺眸さんが三省を写した写真を借りて、五つの章の扉を飾った。装丁は中山銀土さんに担当してもらった。

出版は1981年から1990年までの3冊で止めてしまった。その後はビデオカメラを手に入れ、いのちの祭り '90 大山のは、VHSビデオで5時間の音楽ドキュメントを発売できた。この映像は今ではYouTubeで公開しているので、興味ある方は観てください。

90年代は動画に転向していたが、21世紀になり311以後はスマホで撮影を再開し、今はビデオカメラも数台加えて、祭りやイベントのステージを中心にYouTubeチャンネル【榎田きこり】で、1000本ほどを公開している。

今回、渡辺眸さんの写真誌『遊行め』で出版にも戻ってきたが、キッカケがある。多くの先輩方が亡くなっていく中、健在の方々からいろんな話を聞いておこうと、数人でカウン

ターカルチャー・アーカイブ【私の青空】を、東京西荻窪の[ほびつと村学校]で、公開講座を2015年から18回開いた。その五回目に渡辺眸物語を開催した。

眸さんは写真家なので多くの写真をスライドショーで観せた。写真集や雑誌の数々をスナップして、彼女のお喋りの先導を写真に託した。

数々の講座の中から何か出版出来ないかと考えた。眸さんは、60年代後半の新宿、テキヤ、東大全共闘、70年代からのインド・ネパール、猿など有名な写真集が数々あるが、雑誌に掲載された私や友人たちがよく知るシーンは写真集になっていなかった。1970年代からの九州のコミュン、それは諏訪之瀬島のパンヤン・アシュラム、宮崎のヤドカリ族、屋久島の山尾三省、別部は長松寺の山田龍宝、またインドはプーナのラジニーシ(後の和尚)アシュラム、更にいのち

の祭り 88 in 八ヶ岳などは、沢山の雑誌に掲載している。

カウンターカルチャーのシーンをベースに、眸さんの50年に渡る写真を蘇らせよう。スナップしていた画像から選んでレイアウト。資料なども入れて222ページとなった。データをプリントして製本してみた。眸さんを2022年3月に訪ね、こんな写真集を作ろう！とプレゼン。眸さんは了解してくれ、本格的な作業に。

写真の倉庫には紙焼きやフィルムは整理されないまま置かれていた。月に一度、二・三日かけて【私の青空】のスタッフが集まり整理していく。一年かけて整理しながらフィルムを見つけた。知らなかった雑誌も沢山確認でき、またもスマホでスナップし、そこからまた見本を作り直した。紙焼きやも沢山あったがコレは判別がし易い。膨大なモノクロームフィルムは、スキャンしてみないとなんだか分からない。2年近い時間がかかった。

全体のデザイン処理を含めた装丁は、『聖老人』を仕上げてくれた中山さんをお願いした。あの時の装丁が、彼の装丁家業の出発点であったと引き受けてくれた。編集・写真・装丁トライアングルの復活である。

好き勝手に選定しレイアウトした写真集だが、適度に解説を入れて、これまでの作品発表のリストと写真展リスト、更に日米の眸さんに注目している方の文も寄せられ、2年半をかけて完成した。

眸さんの意見は適度に聞いたただだが、仕上がってみて、通常では作られない本が出来上がった。完成した写真集を眸さんも気に入ってくれたよう。

プラサード書店→



渡辺眸
遊行め
Yugyoume, or Hitomi On The Road
Watanabe Hitomi Photography

写真531点収録
並製210×148% 344頁
2024年5月発売
定価4000円+税

発行▶プラサード書店